

川上ダム建設・付替道路工事、  
発掘調査の名の遺跡破壊、環境破壊

奈良市 小山 公久

1998年3月発行『川上ダム建設に伴う付け替え道路事業地内 埋蔵文化財発掘調査 概報工』の「第1図 周辺の遺跡位置図」には、文久年間に出土した、高さ128.8cmの比土銅鐸の出土地点が無視されている。比土遺跡は、旧石器、縄文草創期～弥生～中世の重要な遺跡であり、1996年には、旧石器時代のサヌカイト制旧石器剥片が出土し、伊賀地方に旧石器時代人が活躍していた事を立証した。比土の奥城寺遺跡では、すでに縄文草創期の有茎尖頭器が出土しており、比土銅鐸と共に、無視して検討している点は不可解である。

そして、全長142mの馬塚古墳を始めとする前方後円墳が集中している美旗古墳群や、川上川上流地域の縄文遺跡、例えば、高尾の布引開拓地遺跡の事が無視されている点は、意図的なものを感じさせられる。縄文早期から弥生の石器、土器が多数出土している川上川、前深瀬川は旧石器、縄文の宝庫であり、種生八王子社遺跡では草創期の有茎尖頭器が採集されており、青蓮寺の白早稲遺跡や山添村の大川、桐山、和田、北野ウチカタピロ遺跡等、木津川上流の名張川、布見川、宇陀川、青蓮寺川等は、縄文草創期からの関西地方第一の縄文文化地域である事を強調すれば、工事でなくなる事を恐れたのではないのでしょうか。

さらに旧石器時代の深さまで発掘調査も、合せて実施すると、ダム建設工事が不可能となる。川上川、前深瀬川沿いには、多数の縄文遺跡、そして旧石器が発見される可能性は非常に高い。

2001年3月刊報告書、2004年3月刊『同』においては、続々と発掘されてくる。旧石器(桐の木古壱岩遺跡からのナイフ形石器)縄文時代等、以上に述べた点を記述せざるを得なくなってきている。

この地域一帯は、世界遺産に申請しても良いほどの重要な、旧石器、縄文地域であり、保存することが望まれる。

#### 製鉄遺跡

比奈地、赤岩、滝之原地域の地質はハンレイ岩で構成されており、古代製鉄が行われてきた重要地点と思われる。

『上野市史 自然編』212頁を次に示す。

チタン鉱床：伊賀地域

上野盆地北縁から南東縁にかけての地域にイルメナイトを主とするいわゆる山砂<sup>やまづなこう</sup>鉱床などがある。

本地域の鉱床は、主として斑れい岩<sup>へいにゅうへんまがん</sup>および侵入片麻岩に由来するもので、山地や丘陵の山裾に分布する洪積層・沖積層の基盤に近い部分の砂・礫・粘土中に普遍的にまたは局部的に濃集した漂砂<sup>ひょうさ</sup>鉱床、現地に残留した砂・礫・粘土中に濃集した原地残留鉱床が散在する。

昭和18年に採掘が始まった名張市の滝之原鉱山では、川砂鉄<sup>かわきてつ</sup>鉱床の磁鉄鉱・イルメナイトを採掘していた。チタンの含有量は47%と高品位であった。現在稼行している鉱山はない。

戦後、宇宙開発ロケットにチタンが役立つ事が、わかって、日本国内で、もう一カ所、山添村の神野山鉱山でチタン採掘が行われてきた。神野山山頂にある王塚古墳はヒ速日<sup>ひはやひのみこと</sup>命の墓と伝えられ

ており、剣の神様、地震の神様である鹿島神宮のタケミカツチの命の祖又は、春日大社のおばさんの神と言いつた。

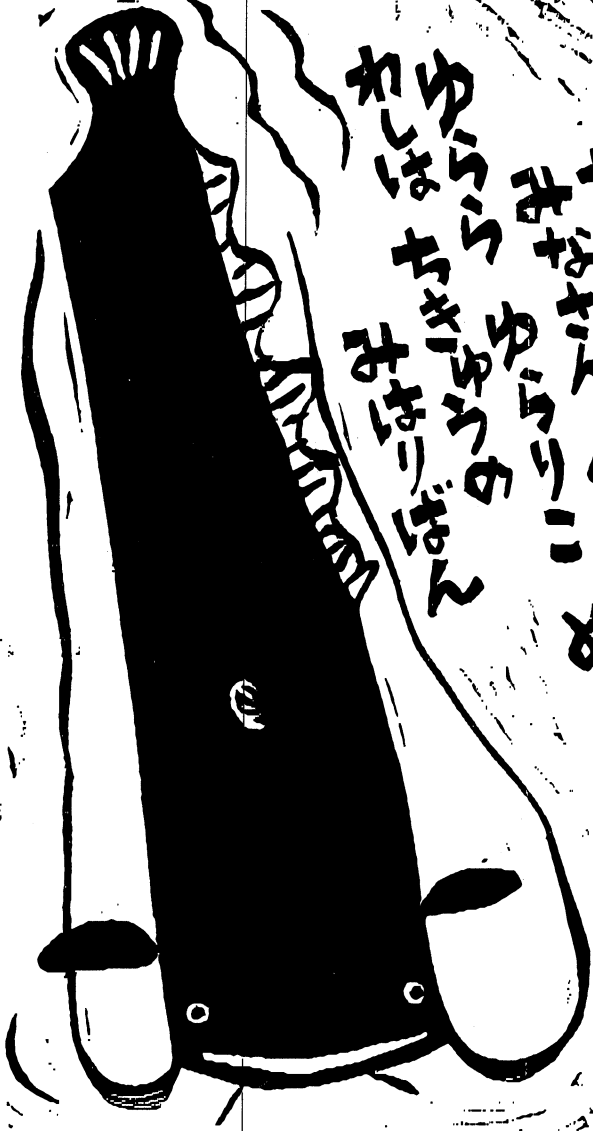
私は阿保村が息速別命いこはやわけのみことの地である点に注目する者です。『続日本紀』恒武天皇、延暦3年(784)11月21日条に「伊賀国阿保村に、代々息速別命の子孫が住んでいた、阿保朝臣、阿保公を賜った。」とあり、この息速別命は第11代垂仁天皇すいにんの息子であり、第12代景行天皇けいこう、倭姫命やまとひめと兄弟姉妹であった。皇行天皇の息子日本武尊やまとたけるのみことが伊勢神宮初代斎王である、おば倭姫からさづけられた草薙剣くさなぎのつるぎ(熱田神宮のご神体)が、この地で作られたのではないかと研究を進めている者です。

古代人はチタン入り鉄剣、日本刀の重要性を知っていたのでないか、最重要秘密として藤原一族、奏氏は登上してきたのではないかと調査を進めています。

ところが、現地調査をしようにも、その一部地域は、すでに比奈知ダムの水底になっており製鉄遺跡採掘口跡の確認ができなくなっている。かえすがえすも残念です。

数名の者が、自分達の興味がある地点のみ発掘調査して、他の拡大な地域は、工事、開発しても良いと決定・許可しブルドーザーで破壊してきた。

アメリカ政府が、ホビ族に水道管を引く工事を、拒否し、天雨のめぐみで、感謝して生き続けることを望んだ、トウモロコシ平和の民のメッセージ「私達のお母さんである大地を傷つけて、肝臓や心臓にメスを入れる行為は止めて下さい。」に耳をかたむける時ではないでしょうか。



わしはちきやうとゆらゆら  
 ましきやうとゆらゆら  
 おっかぜきやうとゆらゆら  
 ちきやうとゆらゆら  
 みなさん  
 わしはちきやうとゆらゆら  
 ましきやうとゆらゆら  
 おっかぜきやうとゆらゆら  
 ちきやうとゆらゆら  
 みなさん  
 わしはちきやうとゆらゆら  
 ましきやうとゆらゆら  
 おっかぜきやうとゆらゆら  
 ちきやうとゆらゆら  
 みなさん



9

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	